

日本数学会教育委員会からの報告

【教育委員会】

日時：2021.3.15 11:30～13:10

場所：ZOOM 開催

出席：14名

議事の概要は以下のとおりである。

1. 次期委員長の選出について：

現在の委員長が2020年度で3年間の任期が満了することに伴い、次期委員長候補として、現副委員長である佐野委員を推薦したい旨、委員長から提案があった。審議の上、佐野副委員長を次期委員長候補として、理事会に推薦することが承認された。次期副委員長として、現在の高倉副委員長の継続も承認された。もう1名の副委員長に関しては、佐野新委員長に人選と交渉を一任することも合わせて承認された。後日、川添委員が新副委員長就任を快諾されたので、彼を理事会に推薦することとなった。

2. 次回の教育シンポジウムについて：

9月の秋季総合分科会は対面での開催が予定されているものの、新型コロナウイルス感染症の状況によっては、再びオンラインでの開催となることも考えられる。そこで、佐野次期委員長から、行先が不透明であることを考慮すると、シンポジウムではなく、より融通の利く「勉強会」の開催を予定しておく方が適切ではないかという提案がなされた。議論の結果、次期学会が対面で行われた場合、新学習指導要領に関連して「大学入試の3年前告知」についての勉強会を開催することが承認された。後日、秋季総合分科会のオンライン開催が決定されたため、勉強会の開催は中止となった。

3. 理数系学会教育問題連絡会からの脱会について：

日本数学会がこれまで加入していた「理数系学会教育問題連絡会」から、2021年3月末日をもって脱会することが理事会で承認された。その意向を「連絡会」に伝え、受理された。以上の事柄について、委員長から報告がなされた。

4. その他

今回をもって、真島委員、海老原委員、上委員が任期満了となり、徳永理事が担当理事から離れることに伴い、挨拶がなされた。

多くの委員が交代になることに伴い、多様性を考慮した上で、新しい委員を推薦願いたい旨、委員長から依頼があった。

多くの大学でオンライン授業が行われる中、教育に関する方法、効果、評価などを話し合ったり、共有したりできる場を設けられたら望ましいだろうといった声があがった。

5. 謝辞

最後になりましたが、3年間委員長を勤める間、教育委員会委員や担当理事はもちろんのこと、時々の理事長をはじめとする学会関係者、シンポジウムでご講演いただいた方々など多くの方のお世話になりました。厚く御礼申し上げます。

【教育委員会主催シンポジウム】

日時: 2021.3.15 14:00~16:30

場所: ZOOM 開催

今回の教育委員会シンポジウムは「2020年代の数学教育の方向性—高大接続を中心に—」というタイトルで佐野隆志 教育委員会副委員長の司会で行われた。

まず開会にあたり寺杣友秀 日本数学会理事長が挨拶に立った。1年ぶりに開催となる今回のシンポジウムは、大学教員にも馴染みの深い「高大接続」の話題であり、入学後の教養教育の観点からは大学教員にも具体的対応が求められる事案であると強調された。

その後、牛瀧文宏 教育委員会委員長が趣旨説明を行った。日本学術会議第24期数学教育分科会提言（2020年8月）と大学入学共通テスト（2021年1月）は、この先の数学教育、特に高大接続の方向性に関わる事案であるため、今回のシンポジウムを企画したことが説明された。

今回のシンポジウムの一人目の講演者はお茶の水女子大学 名誉教授の真島秀行氏で、「新学習指導要領下での数学教育について—数学教育分科会（日本学術会議（第24期））の提言を中心に—」というタイトルでご講演いただいた。ご自身のこれまでの数学教育に関わる経歴説明の後、我が国のこれまでの数学教育の概説に続き、新学習指導要領の精神を紹介された。「統計教育の実効性向上」の観点から「提言」と新学習指導要領を関連づけて話された上で、あくまでも基礎にある数学

こそが重要であり、統計も含めた数学的な見方・考え方を思考・行動に活かすように育てることこそが、数学教育において重要であると力説された。

二人目の講演者は独立行政法人大学入試センター 試験・研究統括官の大津起夫氏で、「令和3年度大学入学共通テストの実施結果について」というタイトルで、大学入学共通テストについてのこれまでの議論の概要や今年の試験のデータ、今年行われた本試験とこれまでに行われてきた試行調査との違いなどを主に講演された。加えて、新学習指導要領への移行に伴う「箱ひげ図」の定義の変更や、試験問題の影響に関するご自身の考えも示され、大変興味深い内容のご講演であった。なお、シンポジウム実施時には令和7年度からの出題教科が未発表であったが、後日、追記されたスライドを頂戴した。

お二人の講演後は、牛瀧文宏 教育委員会委員長の司会で講演者をパネリストとしたパネルディスカッションの時間を設けた。申し込み時にあらかじめ寄せられていた質問や意見をもとに意見交換を行うとともに、視聴者からの質問も受けた。

ZOOM 開催による初めての教育シンポジウム開催のため、講演者や視聴者には負担や苦勞をかけた点多々あったと思われる。会員限定としたために、事前登録を求めた。それに起因するトラブルも発生し、多方面に迷惑をかけてしまったことは反省材料であろう。今回のシンポジウムには、65名程度の参加があった。通常の場合に比べて、参加者が半減したのは意外であった。なお、教育委員会のウェブサイト <https://www.mathsoc.jp/overview/committee/education/sympo/2021mar.html> では当日の様子を写した写真も公開している。また当日用いたスライドを資料として掲載されているので興味のある方はダウンロードしていただきたい。

最後になりましたが、不慣れな中、ご協力いただいた方々、特にご講演いただいた先生方に心より御礼を申し上げます。

文責 教育委員会前委員長 牛瀧文宏